

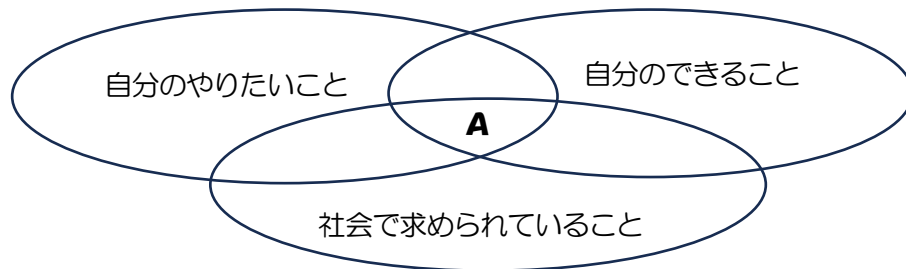
## 進路について考える一つの見方

以下の考え方は、以前も紹介したことがあるのですが、割と評判がよいので、少しアレンジしながら定番メニューとして取り上げたいと思います。入学・進級のタイミングで、改めてこういう視点で進路について考えてみるとよいでしょう。

ここで紹介するのは「**自分の進路を考える際、以下の3つの要素から考えよう**」というものです。

・自分のやりたいこと / ・自分のできること / ・社会で求められていること

これを、以下のような図で、イメージしてみます。



この、**A**で示されているところが、その人にふさわしいであろう仕事(さらに言えば生き方)になる、という考え方です。

わかりやすいのは、「やりたいこと」と「できること」が重なる場所ですね。裏を返せば、ある職種に就きたいとしても、その適性・能力がなければ、ふさわしい職種だとは言えません。文理選択・学部学科選択・職業選択の際、**自分のやりたいこと、なりたいたいものを軸**に考えてしまいがちですが、一方で**自分のできること**であるかも考えなければなりません。一方、「**社会で求められていること**」は少し分かりにくいですね。これをものすごく割り切ってしまうと、そこで**賃金がもらえたり、感謝されたりする**、ということです。例えばケーキ作りが好き(やりたい)で、ケーキ作りが得意(できる)だとして、そこで収入が得られるなら、その人にとってふさわしい職業といえるでしょう。でも、誰も買わず、自分で食べたり、友達にあげたりするだけであれば、それは趣味(もちろん、趣味は大事です)になるよね、ということです。

さて、ここまでが基本的な考え方です。もう少し考えを深めていきましょう。

この図でイメージしてほしいのは、それぞれの輪が大きくなればなるほど、**A**の範囲が広がるということです。

学校で勉強をするよう声をかける最大の理由は、この図で言う「**自分のできること**」の輪をどんどん大きくしてもらうためなのです。「できること」の輪が広がって、「やりたいこと」を内包してしまえば、やりたいことは全部できる、ということになりますね。

一方で、「やりたいこと」を広げることできます。「やりたいこと」は自分の思いだから、そんなに広がるかな、と思う人は多いと思います。また、「やりたいことがない」「やりたいことが見つからない」という人も多いでしょう。

そこで、重要な法則を紹介します。

**「人は、知っていることしかやりたいと思わない」「知らないことをやりたいと思う人はいない」**

当たり前ののですが、「**あなたのやりたいこと**」とは、「**あなたの知っていることの範囲の中でしかない**」ということです。ですので、やりたいことを広げよう、ということは、**もっともっと知っていることを増やそう**、ということでもあります。実際のところ、大学に行く価値の一つは、**よりいろいろな人や場所に出会って、見聞を広める**ということにあります。その点において、某マンガで言われていたような、**やりたいことが見つからない人こそ、東大に行くべきだ**、という話には一理あります。

では、「社会で求められていること」を広げるのはどうでしょう。これは、あくまでも**他者(社会・地域・時代)**が求めるものなので、自分から広げていくのは難しいです。また、景気の動向や技術革新によっても伸びる業種、停滞する業種は様々です。具体的には挙げませんが、ニーズはあるのに賃金が安い仕事や、賃金は高いのに、働き方がブラックとか、世の中なかなかうまくいきません。もちろん、高校生の段階で、そこまで考えなくてもよいとも思います。大学に4年間、6年間いる間に社会も大きく変わります。例えば、今の大学4年生が高校生の時には、ここまで生成AIが普及するとは誰も思っていませんでした。

大事なことは、特に**学生のうちに、世の中の動きをキャッチするためのアンテナを張り巡らす**ことです。「やりたいこと」と同様、「社会で求められていること」に対する知識が増えれば増えるほど、**A**の範囲は広がっていくでしょう。

今回の内容が、どこまで役に立つかわかりませんが、自分の進路について考えるうえで、このように「**自分のやりたいこと**」「**自分のできること**」「**社会に求められていること**」という要素で整理してみると、自分の選択が明確になるでしょう。